

1 活動名

5歳児 1月 世界でたった一つの宝物づくり ～地域の赤土を使って自分だけの植木鉢をつくろう～

2 活動の目標

- ・地域教材「野路の赤土」を使って、ものづくりができることを知る。(知識及び技能の基礎)
- ・陶器づくりを通して、土取りから焼き上がりまでのものづくりの工程を知る。(知識及び技能の基礎)
- ・赤土という自然素材を扱うなかで、既成のものとは異なるその特質や特性に気づく。(知識及び技能の基礎)
- ・アイデアや工夫を生かしながら自分だけの植木鉢づくりをする。(思考力・判断力・表現力等の基礎)
- ・陶芸作家の方に作り方を教えてもらったり、関わったりすることをとおして親しみをもつ。(学びに向かう力・人間性等)
- ・友だちやおうちの人と一緒に「世界でたった一つの宝物づくり」に楽しんで参加する。(学びに向かう力・人間性等)

3 活動によせて

(1)教材観

- ・「野路の赤土」は、地域の人から野路にしかない地域特有のものである話を聞いた。また、赤土を使用する際は地域の人の畑まで子どもたちが取りに出かけ園に持ち帰り遊びに使うなど、馴染みの深い土である。
- ・「野路の赤土」は、玉川学区の中でも野路にしかない地域特有の土である。赤土の特質は、粘土質で石のようにカチカチに固まってしまうが、砕いてふるいにかけることを繰り返すことで、粒子の細かいサラサラの粉になる。この土の特性を生かし粘土を作り、子どもの遊びや活動に取り入れる。

(2)児童観

- ・子どもたちは、遊びや活動に赤土を取り入れきたことで大変親しみをもっている。水の量を加減しながらトロトロにしたり、粘土のような堅さにしたりしながら、遊びの用途に合わせて遊んできた。また、赤土といわれるが、実際には、濃い深みのある黒い色をしていることから本当のチョコレートのように見える。そのことから、シリコン製の型に流し込みチョコレートをつくり、ラッピングしてお店ごっこをして遊んできた。
- ・2学期になり、1学期の経験を活かし、赤土粘土を自分たちで作る。使用する量も増やし、こねたり、伸ばしたりするなど全身を使って遊ぶ姿が見られた。最初は、友だちと一緒に粘土を積み重ねて山を作ったり、道を作ったりしながら一つのまちづくりなども行っていた。また、保育の中で毎日読み聞かせをしてもらっていたお話「エルマーの冒険」からイメージを広げ、お話の世界に浸りながら粘土で表現する姿が見られるなど、年間を通して親しんできた。

(3)指導観

- ・子どもたちが親しんできた「野路の赤土」を使って、自分たちの生活で使用する陶器(植木鉢)を作ることは、赤土の異なる使い方を知ることができる。また、生活の中で使用することで、そのものに対して愛着をもちやすく、卒園しても園の思い出になる。また、陶器づくりをとおしてその工程や過程を一から知ることができる。
- 陶芸作家や専門員の方にもお越しいただき、関わりを通して行うことは、その人のものづくりへの思いなど人の価値観にも触れることができる。このことは、人に対して思いを馳せることにもつながる。地域教材をはじめものに触れ、人に触れる中での様々な感情体験が、ものを大切に扱う心や地域への愛着心、ふるさと意識などの育みにも繋がると考える。また、一緒に活動する保護者においては、子どもと同じ活動をすることで、活動のねらいや教育的価値を知ることができる。また、このことは、地域の再発見と本園の教育活動の理解推進を図ることができる。

4 ESD との関連

- ・本活動で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

多様性・・・一つの素材であっても、全く異なるものに形を変えるなど多様な使い方ができることを知る。

相互性・・・赤土粘土の活動をとおして土取りから陶器づくりまで、様々な人が関わり、様々な人にお世話になりながら一つの活動ができることがわかる。

有限性・・・陶器は焼き上がりの段階で割れるものもあるなど、予測通りにならないこともあることを知る。また、扱い方が悪いと壊れ、ものには限りがあることを知る。

・本活動を通して育てたい ESD の資質・能力

○未来を予測して計画を立てる

・使い捨てではなく、長く使用できるものは環境にやさしいことを知る。

○多面的・総合的に考える態度

・陶器でできているものは、扱い方が悪いと壊れ、限りがあることを知る。

○つながりを尊重する態度

・地域の人から「野路の赤土」の話を聞き、思いを馳せる。また、土をいただくことに感謝する。

○進んで参加する態度

・植木鉢づくり活動に楽しんで参加し、途中で失敗しても作品を完成させる。

・本活動で変容を促す ESD の価値観

○世代間の公正

・地域の人やその地域に住むみんなが地域教材について知り、地域の良さや地域の再発見につながる。

○自然環境、生態系の保全を重視する

・使い捨てではなく長く使用できるものや自然素材でできているものは、自然に戻るなど、環境保全に繋がることを知る。また、自分が使用する時にはそういった素材でできているものを選択するようになる。

・達成が期待される SDGs

1 1 住み続けられるまちづくりを

1 2 つくる責任・つかう責任

1 5 陸の豊かさを守ろう

5 保育構想図（赤土を使った遊びの流れ）

4月～5月

ごちそうづくり



砂場での遊び



砂や水などの感触を味わい、イメージを広げながら山や川をつくり遊びを進める。

身近な自然物を遊びに取り入れ生かす力



花や草など身近な自然物を取り入れて、ごちそうをつくる。



6月

泥団子、チョコレートづくり～赤土に触れて～



素材の特性に気づく力



土や砂により粒子の違いを感じ、その違いに合わせ、水を調整しながら堅さを変えて遊ぶ。

10月

自分たちで一から赤土粘土を作る

地域に親しみを持ち、関わりを広げようとする態度

友だちと同じ目的のもと協力してことを進めていこうとする力



地域の方の畑へ赤土を取りに行く



11月～12月

赤土粘土で一人一人の思いを表現して

友だちとイメージを共有したり、考えを伝え合ったりする力



お話の世界やイメージを広げながらかたちとして表現する

金槌で砕きふるいにかけてながら、赤土粘土づくりの準備をする。



イメージや表し方には人それぞれあることに気づく力

6 活動の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に活動に取り組む態度
① 「野路の赤土」が地域特有のものであることを知る。 ② 赤土を扱う中で、その性質や特性に気づき、遊びや活動に活かす。	① 赤土粘土でイメージを具現化する。 ② アイデアや工夫しながら自分だけの陶器(植木鉢)をつくる。	① 陶芸作家や学芸員の方と積極的に関わり、意欲的に活動に取り組む。 ② 友だちの作品を見たり、作品について尋ねたりして取り入れながら、イメージやアイデアを広げる。

7 保育指導計画

(1) 活動名 世界でたった一つの宝物づくり～地域の赤土を使って自分だけの植木鉢をつくろう～

(親子活動)

(2) ねらい ・地域の赤土を使って、自分だけの植木鉢づくりをする。

内 容 ・植木鉢になるように工夫したり、イメージしたことを形として表したりする。

時 間	子どもの姿	援 助 と 環 境 構 成	評価
9:00	○遊戯室に集まり、親子で座る。 ○本日の活動について説明を聞く。 ○講師の先生方に挨拶をする。 (陶芸の森より陶芸作家、専門員) ○陶芸作家の方に話を聞いたり、作り方の見本を見せてもらったりする。 ○材料(赤土粘土)を取りに行く。 ○親子で植木鉢を作る。 ・親子でどのような形やデザインにするかを話し合い決める。 ・粘土をこねながら形を整えていく。 ・イメージを形にしていく。 ・色付けしたいところに釉薬で色を付ける。	○本日の活動に期待をもつように今日の活動について話す。 ○地域特有の教材「赤土粘土」を使って、植木鉢をつくることを知らせ、「赤土」が野路特有のものであることを再確認する。 ○陶器づくりを専門に行う陶芸作家という仕事があることや陶芸の森があることを知ることができるように、作家の方の見本なども並べて置く。 ○本日の活動については、事前にお知らせをし、家庭でもどのようなデザインにするかを話し合ってきてもらう。陶芸作家の方が持って来てくださった見本や作家の方の実演を見て、更にイメージを広げたり具体的にになったりするように、再度話し合う時間をもつようにする。 ○ひび割れなどが起こらないように、確認を促す。 ○伸ばす、ひねる、つまみだす、型がつくなどの粘土の特性を活かして工夫して作れるように適宜、声をかける。 ○わからないことは陶芸作家や学芸員の方に尋ねるように声をかける。	ア① イ① ア② ウ① ウ②
10:00	○できた作品を前に並べ、互いに見合う。 ・頑張ったところを話すなど作品の紹介をする。 ○焼き上がりについての話を聞く。 ○片付けをする	○出来上がった作品に期待をもつ。	
10:30	○陶芸作家の方や学芸員の方にお礼を述べて終わる。	【準備物】 ・赤土粘土 (適度な固さに練っておく) - 一人500g・濡れタオル・園児机12台・椅子46台 ブルーシート 水を入れた容器(23個)	